

Annual Report

NPO法人EduArt 2024年度活動報告

1. 谷本小学校 SDGsquares
2. かえつ有明高等学校 人権ミュージアム
3. 青木小学校 SDGsquares
4. 葛野小学校 SDGsquares
5. 横浜朝鮮初級学校 SDGsquares
6. 洋光台第一小学校 SDGsquares
7. みなとみらい本町小学校 Diversity Blocks
8. EMPORWERING TOMORROW展
9. 保育園連携アート事業



令和6年5月、緑の風が谷本の丘をかけ上がる季節に、6年生全3クラス94名の皆さんに、アートプログラム「SDG squares」をお届けしました。

1日目の前半は、「生命の始まりについて考えたことはありますか？」という問いかけから始まる「地球レクチャー」。地球上における命の誕生、人類が歴史の中で繰り返してきた様々な成功と失敗を時系列に追い、「何のために、誰のために生きるのか。」という原点に立ち、地球環境や現代社会の課題と未来へのつながりを考えました。レクチャーを終えて「生きるってなんだろう」の問いには、最初は少ししか手が挙げられなかった子どもたちも最後には続々と手を挙げ、次々に自分の意見を発表しました。「生きるとは」子どもたち声：「次の世代に命を繋ぐこと」、「夢を持つこと」、「全力で楽しむこと」、「幸せを望むこと」、「未来へ進むこと」などの答えが返ってきました。

1日目の後半は、EduArtが独自に開発した「トピックカード」を使い、SDGsを視覚的に学ぶ「グループワーク」に取り組みました。SDGsに関連する様々なトピックを記載した102枚のカードを17の項目に振り分けます。「日本に住む子どもの7人に1人は給食しか食べることができない」「ジェンダーレス制服の導入」など、子どもたちに身近な事例が詰まっています。グループでカードを振り分けた後、各自1枚ずつ自分が気になったカードを選び、選んだ理由をワークシートに書き込んで発表しました。

2日目はいよいよ制作です。図工室の前には色ごとに分けられた廃材が並びます。17項目の中から自分が選んだテーマカラーを土台に、自分だけの作品作りを行いました。3クラスとも、それぞれが自由に制作に取り組み、谷本の6年生たちの豊かな表現力に心を打たれました。

最後には全員の作品を1つの机に集めて鑑賞タイム。まずは自分たちに拍手を送り、気になった作品について意見を交換しました。指名された子どもは、自分の言葉で作品に込めた思いを語り、お友達もその声に耳を傾けて称えました。谷本小学校6年生の皆さん、素晴らしい時間をありがとうございました。



7 6-3 中島 享助



2 6-3 鹿野 愛斗



5 6-2 柳原 朱里



8 6-3 池田 和真



10 6-1 白石 大翔



13 6-2 豊島 菜都



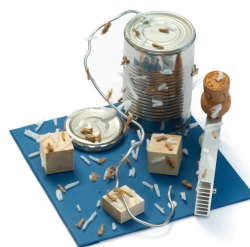
15 6-3 高部 湊羽



6 6-3 池田 希望



14 6-1 古江 真緒



16 6-1 関口 沙彩

谷本小フォトギャラリー

谷本小学校で実施したプログラムの様子は、EduArtのサイトのパスワード付き保護者専用フォトギャラリーでご覧いただけます。

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。

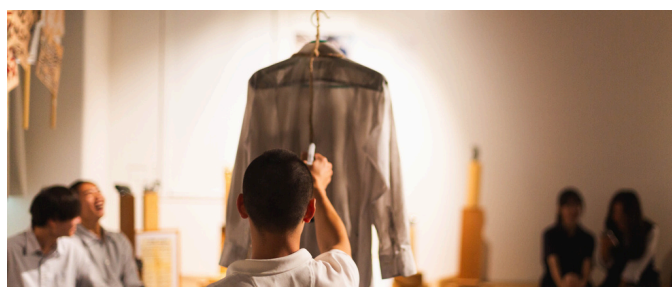
www.eduart.jp
www.facebook.com/EduArt.japan
www.instagram.com/eduart_japan/

ART FOR HUMANITY

Program Report

July.2024

人権ミュージアムプロジェクト



私たちには「人権」について考える「権利」がある。

今学期、正義について学んできた新クラス。EduArtと共に「正義」から「人権」に視点を広げ、「人権」をテーマに7つのグループに分かれてインスタレーションアート作品に取り組み、発表の場として「人権ミュージアム」を作り上げました。



DAY 1 対話 DIALOGUE

「世界人権宣言」を皆でひも解き、そこから見える世界について対話。



DAY 2 制作 CREATION

7チームに分かれ、「世界人権宣言」から1つ選んだ条文を基にインスタレーションアートを制作。

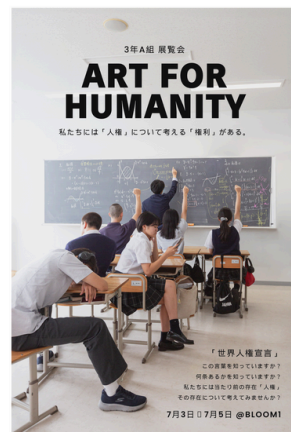


DAY 3 発表 PRESENTATION

テーマとなる条文に関連する過去の事例、史実、自分の体験、アーティストステートメントを発表。

解決策を見出すための対話という歩みを 止めないことが未来への希望の萌芽だと気づく

正義とは何か人権とは何か。何を守り何を実現するためにあるのか。その答えを見つけることは容易ではなく、また答えが1つであるとも限りません。アートを通して一つのテーマについて考え表現することは、彼らに自己への洞察を促し、本質に対する理解を深めます。過去の事例や史実・自身の経験に照らし合わせ、互いの多様な価値観に向き合いながら思考に形を与える。3日間のプログラムを経て、抽象的な概念であった「正義」を、各々が自分の中にある根源的な価値観として捉えることができたのではないのでしょうか。このプログラムで彼らが歩んだ思考の旅路は、彼らを内から支える自信となり、未来を切り拓く力となる。そう心から感じられる素晴らしい時間でした。



現代社会で起こる多くの犯罪。メディアを通じその情報を得る私たち。「容疑者」が「被告人」である確証は無い。そんな中、世間には批判や誹謗中傷が多く存在し、「犯罪」も「冤罪」も世間の目に晒され批判され人々の記憶から消えてゆく。しかしその批判は当事者の心や記憶に一生残る。濡れたワイシャツは「濡れ衣を着せられた」人間。蒸発する水は自身を批判した世間が自分を簡単に忘れてゆく様を表す。スプレーの水は濁っていて、人々の記憶が蒸発した後も当事者の心身には一生の染みが残るのだ。あなたの目の前にあるスプレー。水をかけるのか。かけないのか。それ以外なのか。あなたなりの「選択」とは。(一部抜粋)

差別は、人間が人間である限り存在し、人間が人間であることで解決への道を開くことができる

—S.M

『剥奪』 R.W

Are you an artist? If you shook your head, you might be mistaken. Pick up a pen and a piece of paper, and let your hand doodle freely. Or gather items from your trash can and assemble them into something new. Art is a reflection of creativity and an expression of your inner self. By creating, you become an artist, transforming everyday objects and moments into something extraordinary. In 剥奪, each piece represents the value of creation and our rights. My intention is to encourage the viewers to perceive anything as art. Inspired by Alberto Giacometti, I used wires and newspaper to form a human-like figure. Subsequently, I integrated items that I found in my closet at home. A table tennis ball, a superhero coin, and a neck strap of my favorite baseball team; all of which are objects that define my identity. I hope the viewers acknowledge the simplicity and the importance of art, and have a different perspective in their surroundings. (abridged from original text)



『平等と対等』 A.O

この作品は「表現の自由」を「言論の自由」と解釈し、現代の言論の不平等を風刺した。自国での表現の自由を認めていても世界では言論の機会を与えられない国がある一方、自国での表現の自由は認めないが世界では言論の自由が認められている国がある現実への皮肉を込めた。主役となる椅子は国際連盟の集まりをイメージ、言論の自由の「機会」と「国」を表しており、それぞれの国のあらゆる「格差」を意味している。平等なはずである議論の機会における格差の原因はどこからなのか、「表現する」ことを認められた先に行き着く問題とは、「表現の自由の意義」とは何なのか。ぜひ一緒に考えてほしい。(一部抜粋)

『権力者のコレクション』 K.I

Our art piece delves into themes of injustice and the abuse of power across history, reflecting on tragic events where authority has been misused, leading to immense suffering and inequality. For instance, under Hitler's regime, millions of Jews endured unimaginable horrors, and African American slaves in the United States were forcibly uprooted, deprived of their freedoms, and subjected to brutal labor conditions. Our piece utilizes scrap wood and 15 photos to visually represent these narratives. I see this art as a stark reminder of the consequences when power is wielded without compassion or ethical consideration. It prompts us to confront uncomfortable truths about our collective history and consider how past injustices continue to shape our societies today. By engaging with these dark chapters, we aim to inspire dialogue and raise awareness about humanity's tragic past. We hope that by confronting these truths, we can collectively strive towards a future where abuses of power are never repeated, fostering a more just and compassionate world. (abridged from original text)



3年A組 展覧会 ART FOR HUMANITY



第二条 <すべての人は、性別、肌の色、言語、宗教、国籍、貧富の差によって差別されるべきではない>

『潜在』 K.H, M.I, T.S, S.M, S.S



第五条 <すべての人は、いじめや、拷問、ひどい仕打ちによって恥ずかしめられるべきではない>

『権力者のコレクション』 A.F, S.K, M.O, M.H, K.I



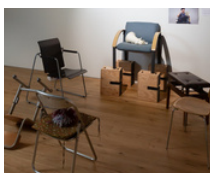
第九条 <すべての人は、不当に逮捕したり投獄したりされるべきではない>

『選択』 Y.T, R.W, E.T, A.M, S.Y



第十四条 <すべての人には、国境を超えて自由に移動する権利がある。そして自国に帰る権利がある>

『白鳥 -しろがらす-』 M.Y, S.N, K.O, T.O



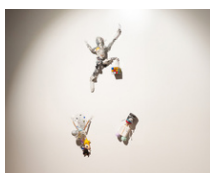
第十九条 <すべての人が自由に意見を言い、また創作を行う権利を持つ。そして自由に国を越えて、誰とでもシェアすることが出来る>

『平等と対等』 A.O, Y.K, K.E, Y.G, H.M



第二十四条 <すべての人が十分な休息の時間を持ち余暇を楽しむ権利を持つ>

『守るべき声』 M.Y, T.I, H.D, T.Y, E.S



第二十七条 <すべての人が文化・芸術を楽しみ、科学の恩恵を分かちあう権利を持つ。また創作・発見したものを自身で所有する権利がある>

『剥奪』 N.H, M.K, T.Y, R.W, R.H

EduArtからのメッセージ

<3年A組の皆さんへ> 3日間のプログラムを通して、社会の理不尽、世界の無秩序を見つめ、自分と仲間と真剣に向き合う皆さんのひたむきな姿勢に心を打たれました。みんなの未来を応援しています！

VISIT OUR SITE TO SEE MORE PHOTOS →



NPO法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開するアート教育団体です。

eduart.jp

[eduart_japan](https://www.instagram.com/eduart_japan)



世界について考えるアート授業 SDGsquares



「私が今食べ物に困ることがなく、しっかりとした教育を受けて過ごしているのは「絶対」ではないことが分かりました。」
植松 奏波

「SDGsquares」は、SDGsの17項目の一つをテーマに、廃材で正方形・スクエアのアートを制作するアートプロジェクトです。社会課題を自分事として捉えることを目的に、NPO団体EduArtが横浜市内各地の小学校にお届けしています。

対話と制作を2日間に渡って取り組むプログラムの1日目は、まず「生命の始まりについて考えたことはありますか？」という問いかけで始まる「地球レクチャー」。地球上における命の誕生、生命の進化、そして人類が歴史の中で繰り返してきた様々な成功と失敗を時系列に追い、「生きるってなんだろう」というテーマでディスカッションをします。子どもたちからは「人の命は、平和・水・健康・人の平等など様々なものから成り立っていると知って、これからは日常的に人のためになることをしていきたいです。(須田 航成)」といった声が聞かれました。自分が今いる場所に立ち、地球環境や現代社会の課題と未来へのつながりを感じる時間となりました。

2日目は、17項目の中から自分が選んだテーマカラーを土台に、様々な廃材を使って作品作りをしました。4クラスとも、個性溢れる作品が次々と完成しました。最後には全員の作品を1つの机に集めて鑑賞タイム。クラスメイトたちの作品が並ぶ圧巻の光景に驚きと感嘆の音が響きました。6年生のみなさん、素敵な時間をありがとうございました！



12 C.K



9 R.F



5 K.T



1 Y.F



10 M.K



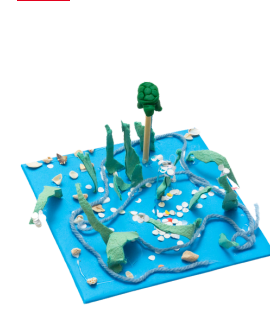
13 A.K



15 R.Y



6 R.M



14 R.K



16 A.K

青木小フォトギャラリー

青木小学校で実施したプログラムの様子は、EduArtのサイトのパスワード付保護者専用フォトギャラリーでご覧いただけます。

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。

www.eduart.jp

www.facebook.com/EduArt.japan

www.instagram.com/eduart_japan/



世界について考えるアート授業 SDGsquares

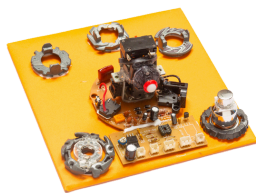


「世界はずっと続いていて、助け合いながら生きていることが分かった。」 一大原真衣

「SDGsquares」は、SDGsの17項目の一つをテーマに、その項目のテーマカラーを使って正方形・スクエアのアートを制作するアートプロジェクトで、葛野小をはじめ、NPO団体EduArtが横浜市内の小学校にお届けしているアートプログラムです。

総合学習でペットボトルキャップアートに取り組んでいる5年1組の皆さん。自分たちの学びが、どのようにSDGsや世界の課題とつながっているかについてもっと広く知りたいということで、今回私たちと「SDGsquares」に取り組みました。対話と制作を2日間に渡って行うプログラムの1日目は、なぜSDGsに取り組むのかという問いからスタート。地球の誕生と生命の歴史を時系列に追い、様々な問いについてみんなで意見を出し合いました。「何億年も地球があって、今SDGsが出来て1個ずつクリアしていくのが人間らしいと思った。(観行絆斗)」など、たくさん意見を共有してくれました。自分が今いる場所に立ち、地球環境や現代社会の課題と未来へのつながりを感じる時間となりました。

2日目は、17項目の中から自分が選んだテーマカラーを土台に、様々な廃材を使って作品作りをしました。素晴らしい集中力で次々と個性溢れる作品が完成しました。5年1組のみなさん、楽しい時間をありがとうございました！



フォトギャラリー

葛野小学校で実施したプログラムの様子は、EduArtのサイトのパスワード付き保護者専用フォトギャラリーでご覧いただけます。

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。



www.eduart.jp



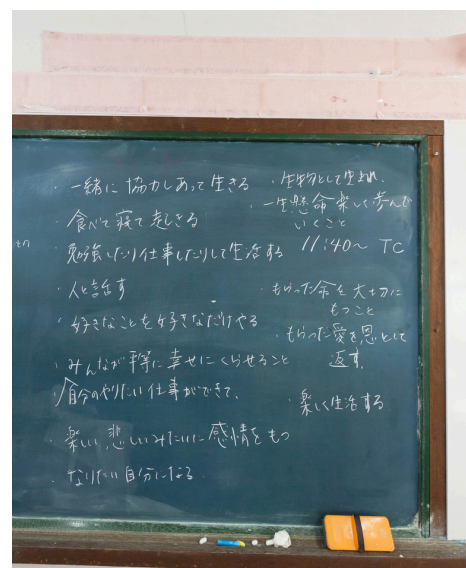
www.facebook.com/EduArt.japan



www.instagram.com/eduart_japan/



SDG squares



「地球にやさしいとは何なのか、もう一度考えて生活しなきゃならないと思った」 李 龍星

「SDGsquares」は、SDGsの17項目の一つをテーマに、廃材で正方形・スクエアのアートを制作するアートプロジェクトです。社会課題を自分事として捉えることを目的に、NPO団体EduArtが横浜市内各地の小学校にお届けしています。2024年9月、今年もこのプログラムを横浜朝鮮初級学校の6年生にお届けさせていただきました。

対話と制作を2日間に渡って取り組むプログラムの1日目は、まず「生命の始まりについて考えたことはありますか？」という問いかけで始まる「地球レクチャー」。地球上における命の誕生、生命の進化、そして人類が歴史の中で繰り返してきた様々な成功と失敗を時系列に追い、「生きるってなんだろう」というテーマでディスカッションをしました。子どもたちからは「普通に生きるのが当たり前だと思ってはいけないと思った（金 紗瑤）」といった声が聞かれました。自分が今いる場所に立ち、地球環境や現代社会の課題と未来へのつながりを感じる時間となりました。

2日目は、17項目の中から自分が選んだテーマカラーを土台に、様々な廃材を使って作品作りをしました。個性溢れる作品が次々と完成しました。最後には全員の作品を1つの机に集めて鑑賞タイム。クラスメイトたち一人一人が作品に込めた思いに耳を傾け、その表現の豊かさに拍手を送り合う素敵な光景がありました。6年生のみなさん、素敵な時間をありがとうございました！



「いいな」



人間以外も暮らしやすい世界



差別をなくそう！



思いを一つに



守られるべきもの



ゴミはゴミじゃない



革新をおこすには



自然は人間が
こわしている



ゴミにまみれた海

フォトギャラリー

初級校で実施したプログラムの様子は、EduArtのサイトの
パスワード付保護者専用フォトギャラリーでご覧いただけます。
初級校向けパスワード：



フォトギャラリー



Instagram



特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そして
お互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事と
して捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。



www.eduart.jp



www.facebook.com/EduArt.japan



www.instagram.com/eduart_japan/



はい材でサンゴしょうを作ろう！

自然を守っていくために「こんなきれいな海があるんだよ」とみんなに知らせていければいい

総合学習でSDGs #14「海の豊かさを守ろう」をテーマに、海洋ゴミの課題に取り組んでいる4年2組の皆さん。「自分たちの学びを廃材を使って表現したい」という思いからお声がけいただき、アートプロジェクト「廃材でサンゴ礁を作ろう！」をお届けしました。3日間のプログラムでは、1日目に海の多様性の住みかであるサンゴ礁について学び、廃材アートを通じて伝えたいメッセージを考えました。2日目は、様々な廃材を使い、各グループで制作に全力集中。チームでアイデアを出し合いながら、個性あふれる作品が次々形になっていきました。そして迎えた3日目。お互いの作品を鑑賞し、グループごとに作品込めた思いを発表する際には、制作を通じてより具体的に海の環境の大切さを考えた意見が聞かれました。海の豊かさに思いを馳せ、自分たちの学びを見事に表現へと昇華させていった4年2組の皆さん、素晴らしい時間をありがとうございました！





フォトギャラリー

洋光台第一小学校で実施したプログラムの様子は、EduArtのサイトのパスワード付き保護者専用フォトギャラリーでご覧いただけます。



Instagram

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。

 www.eduart.jp

 www.facebook.com/EduArt.japan

 www.instagram.com/eduart_japan/

多様性ってなんだろう？

DIVERSITY BLOCKS

社会を構築するブロックアート



多様性と社会について考える特別アート授業

By EduArt

EDU
ART

「私たちが異なるからこそ、互いに学び合う価値がある。」

ーデズモンド・ツツ（南アフリカ出身、反アパルトヘイト運動に尽力した人権活動家）

「DIVERSITY BLOCKSー社会を構築するブロックアート」は、多様性と社会について対話と制作を通じて、体験的に理解を深めることを目的としたアートプログラムです。3日間のプログラムでは、「多様性とは何か」を共に考え、多様な価値観を調整し、融合する難しさを体験すると同時に、多様性がもたらす豊かさを実感しました。単に「みんな違ってみんないい」で終わるのではなく、さらに深く考察し、自分自身の思いを形にするプロセスを通じて、一人一人が社会の一員としての自覚を持ち、共に未来を見つめる大切さを学ぶ時間となりました。

1 対話

「多様性ってなんだろう？」この問いからはじまった1日目。性、年齢、経済、身体、人種などの多様性、そしてそこに根差す偏見や差別。私たちが目指す「多様な社会」はどのように構築できるのか、その道筋を共に考えました。



2 グループワーク

1日目の後半は、グループに分かれてカードワークに取り組みました。3種類あるカードは「マナー」「制服」「スポーツ」それぞれのテーマで価値観の違う人々が集まった時に生じる摩擦や課題。異なる人の立場に思いをめぐらせ、解決策を議論しました。



「みんなつながる」
K.F

障がいを持った人でもだれでもつながれる社会になれるようにする。



「家族」
C.M

昔と今のちがいが、今の時代が幸せであっても問題がまだあることを表現した。



「多様性の時代」
R.K

いろいろな色を使って、世界にはいろいろな人がいることを表した。



「形や色でできる世界」
S.H

中身を見ずに外見やへん見で決めつけしまうから。多様性のことを考えられた。



「想像力の塔」
H.N

色々な形を組み合わせで人それぞれの個性、想像力にあふれた町にしたい。



「静かな海底」
M.Y

静かなくらい海にもちょっとした町があり、多様性を表そうと思って作った。



「多様性の色は無限大」
M.M

色と色を混ぜて、混ぜた色をもた混ぜ、多様性は無限大であることを表現した。



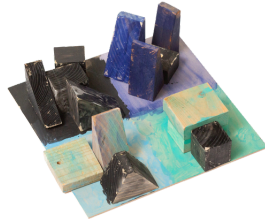
「白黒のてんびん」
M.T

世の中には白と黒があり、どちらか好きな方を自分の意思で決めてほしい。



「しばられない」
H.F

個性を大切にすると一人一人かがやける。しばられないで作ると個性が出る。



「最高の友達」
Y.I

人の中にはバカにする人もいるけど、その中でも信じてくれる人もいます。



3 制作

2日目は、正方形の木板を社会に見立て、さまざまな形や大きさの木片を使って多様性を表現。1500個の木片の中からそれぞれ選んだブロックを組み立て、アクリル絵の具で自由に色を塗りました。みんな全力で自分の作品と向き合い、制作に取り組みました。



4 鑑賞

3日目は、最初にずらりと並んだ学年全員の作品をみんなで鑑賞。付箋に作品の感想を書き込み、贈り合いました。その後、作品に込めた思いを発表。制作を通じて発見した気づき、工夫、それぞれの思いに触れることができた時間でした。



「りそうのけしき」
Y.T

「自分」の色を入れて、自分の心の感情一つ一つを表した。多様性が広がった。



「自分らしさのかいだん」
S.O

人はそれぞれいろんな人がいる。まわりに合わせなくても自分らしくいればいい。



「自由は世界をすくう」
Y.A

まだ個性を出したくても出せない人も誰もが自由に個性を出してほしい。



「個性たくさん」
K.T

個性をいろいろな形や高さの木で表した。みんなのふつうが混ざって認め合える。



「多様性のタワー」
K.Y

タワーにすべてつながて「協力」ということを作品にこめた。



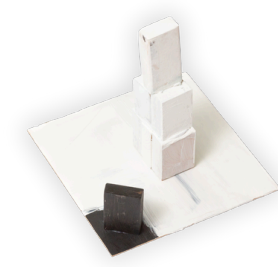
「わたしの色」
Y.T

人には色々な個性がある。だから大きさも様々な個性のつまった公園を作った。



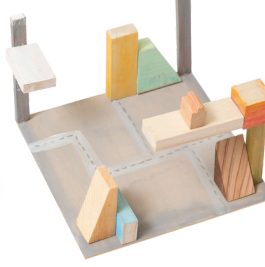
「みんな仲良し」
M.H

多様性は性格とか見た目だけの話だと思っていたけど、もっと広がった。



「仲間はずれ」
K.M

今の社会問題の差別を表現した。多様性という言葉をもう一度考え直したい。



「道でつながっている町」
H.H

一つの町が一つの道でつながっている。みんなの町が一つになる。



「男女の壁をのりこえて」
K.N

男女のかべをこえて、人々が仲良くなる世界をつくった。



ご寄付のお願い

EduArtの学校連携プログラムは団体の活動にご賛同いただける方の寄付によって支えられています。皆様のあたたかいご支援をお待ちしております。

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子ども達が世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分事として捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。



 www.eduart.jp
 www.facebook.com/EduArt.japan
 www.instagram.com/eduart_japan/

EDU
ART

03.06-09
2025

JR YOKOHAMA
TOWER ATRIUM 3F

EMPOWERING TOMORROW

ー未来へつなぐアート之力ー JR横浜タワーアトリウム3F イベントスペース

主催：特定非営利活動法人EduArt 協力：YOKOHAMA Station City 運営協議会 後援：横浜市教育委員会

EMPOWERING TOMORROW

子どもたちのアート作品展：未来へつなぐアートの力

本展は、子どもたちが世界の課題と真剣に向き合い、アートを通じて未来への思いを形にした作品展です。NPO法人EduArtの令和6年度学校連携アートプログラムで、子どもたちが「社会課題」「多様性」「海の豊かさ」「人権」をテーマに取り組んだ作品100点を、その声とともに紹介します。それぞれのプログラムで生まれた学びと気づきを、体感してください。

多様性の大切さ・人が人であること・人と人の幸せの大切さを知った

みなとみらい本町小5年



1

SDGsquares

社会課題を自分ごとに

横浜市立青木小学校、葛野小学校
谷本小学校、横浜朝鮮初級学校



発想力
課題解決力
表現力

2

DIVERSITY BLOCKS

多様性ってなんだろう？

横浜市立みなとみらい本町小学校



3

海の豊かさを守ろう

廃材でサンゴ礁を造形

横浜市立洋光台第一小学校

はまっこ未来カンパニープロジェクト



4

ART FOR HUMANITY

人権ミュージアム

かえつ有明高等学校



差別は、人間が人間である限り存在し、
人間が人間であることで解決への道を開くことができる

かえつ有明高等学校3年

INFO 展示会場: JR横浜タワーアトリウム3F 入場: 無料 会期: 2025年3月6日(木)～9日(日) 10:00-18:00

EDU
ART

特定非営利活動法人 EduArt は、子どもたちが世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来を願って、社会課題を自分ごととして捉えるアートプロジェクトを学校教育の現場で展開しています。

 www.eduart.jp
 www.facebook.com/EduArt.japan
 www.instagram.com/eduart_japan/

Follow us!





来場者の声

「子どもたちの純粋な思いが形になり、この授業を通して学んだことを子ども達のこれからの結びついてくれたらと願います。」

「少しでも地球について考えてくれる人が行動してくれる人が増えるといいなと思われました。」

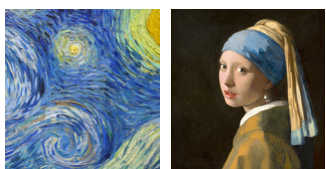
「一人一人の思うことが作品に込められていてすごいなと思いました。作品を見て、自分も何ができるか考えさせられました。」

「汚くて飲めない水を通して、いつも当たり前のように飲んでいる水の大切さに気づいた。」

「自分の作品以外のSDGsの作品など、自分とちがう意見があって面白かった。」

「子ども達の視点から見た世界、そして問題を捉えて制作した作品がどれも興味深く、文章からも心に響くものがありました。」

4月
オランダ



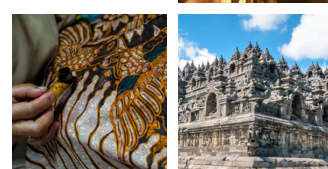
モンドリアン・ゴッホ・フェルメール

5月
ケニア



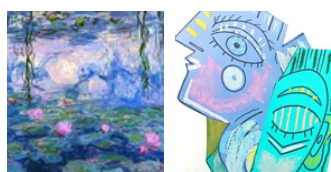
サバンナ・カンガテキスタイル・マサイ族

6月
インドネシア



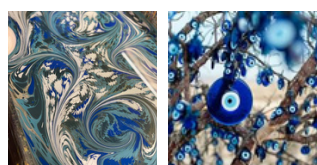
影絵パペット・バティック・ボロブドゥール寺院

7月
フランス



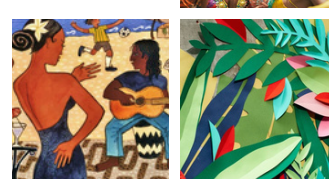
印象派・キュビズム・ルーブル美術館

8月
トルコ



モザイク・マーブリング・ナザールボンジュウ

9月
ブラジル



サンバ・ボサノヴァ・アマゾン

10月
イギリス



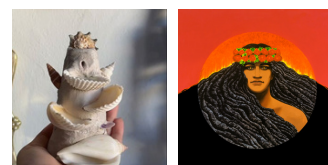
ストーンヘンジ・ウィリアムモリス
・アーツ&クラフト

11月
アルゼンチン



ブエノスアイレス・フィレアド・タンゴ

12月
ハワイ



フラ・南国の冬・火山の女神ペレ

1月
韓国



スウドーホー・K-POP・ハンボク

2月
北海道



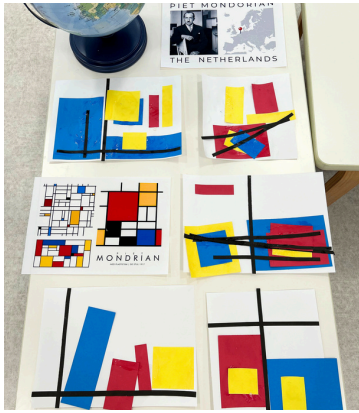
アイヌ文化・雪まつり・土偶

3月
アメリカ



ハリウッド・ネイティブアメリカン
・ポップアート

4月 オランダ



5月 ケニア



6月 フランス



7月 インドネシア



8月 トルコ



9月 ブラジル



10月 イギリス



11月 アルゼンチン



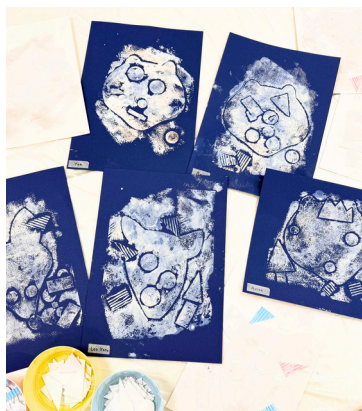
12月 ハワイ



1月 韓国



2月 北海道



3月 アメリカ

